

令和元年度 接ぎ木研究会 報告

事務局 小泉不二男

残暑厳しい8月25日、令和に入って初めての接ぎ木研究会がいつもの土浦市藤沢の新治公民館で行われました。

参加者は17名。平成23年から始まった研究会ではもっとも多い参加者でした。参加費は500円で会場費などに充てました。

講師は中村茂さん。平成26年から連続6回講師を務められています。前半は、中村さんの講義、後半は、会員持ち寄りの接ぎ木作品の講評会でした。



会場風景

新治公民館第4研修室  
暑い中を17名参加。  
自作接ぎ木を持ち寄り。



講師 中村茂さん

中村さんの椿の友コーベカメリアクラブの西村舜子事務局長から今回も貴重な洋種椿の穂木が届けられ、参加者に配布されました。



接ぎ木の実演風景

中村さんは主にビン接ぎです。接ぎ木テープの巻き方を勉強中。参加者に西村さん作出の「銀湖」の挿し木苗が配布され人気でした。



後半は、持ち寄った接ぎ木作品の紹介と講評会です。

植竹亨さん、中山徹さん、小野村弘さん、飯田庸夫さんが発表しました。

写真は中山徹さん。



小野村弘さん

小品盆栽を中心に接ぎ木作品を製作。土浦の盆栽会の事務局長。

昨年配布の台木を使った接ぎ木を持参。針金をかけて盆栽に仕立てました。



接ぎ木台木の配布

今年も染谷治正さんが台木を用意してくれました。参加者に1本ずつプレゼント。さらに希望者する方には200円で販売。

このほかにも、中村さんから椿油がプレゼントされました。かつて、皆さんで取り組んだ椿油作りを思い出しました。また、同じく中村さんからエレイズベティの実生苗も配られ、花が咲いたら報告することになりました。

貴重な品種の挿穂や根付き苗、接ぎ木用台木、さらには椿油を手にして、皆さん笑顔で研究会を終了し散会しました。